失われた未来２

隆史

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
失われた未来２

【Ｎコード】
Ｎ５９８６Ｙ

【作者名】
隆史

【あらすじ】
主人公の隆史は、いつもと変わらぬ学校生活を楽しんでいた。
そして帰り道、赤く染まる防波堤で、どこからともなく黒衣の人が現れた。

第2話　亜人（あと）

太陽が目の前の黒衣を赤く淡く光らせる。
辺りを蹂躙していた生ぬるい潮風と、肌に纏わりつく汗がいっせいに奪われたようだった。

いったいいつ現れた……？

もちろん隆史は、素通りすることも出来たはずだ。

しかし、黒衣の人がそうさせなかった。
漆黒のフードの様なもので目は隠れているのだが、まるで猛獣に睨まれたかの様に体が動かない。

太陽だけが急速に沈んでいく感覚に襲われ、三日月は不気味に存在を主張する。
波の音はどこか遠くへ行ってしまったのか、隆史の鼓膜にとどかない。

先に口を開いたのは黒衣の人だった。というより、隆史は何もいえなかった。

「ン、改めて自己紹介をしようか。私は亜人、性別は見たとおり……君の想像に任せるよ」

黒衣の人は、亜人（あと）というらしい。明らかに偽名だ。勝手に話を進めるし。ふざけているのだろうか？

とか思っている隆史だが、

顎のラインとか、鼻立ちから察するに女の子か？

いや、立ち方が男っぽいような気もする。

と、わざわざ考ええいる辺りを見ると、結構お人良しなのかもしれない。

しかし、はっきり言って、相手をしてられない。

もう今は、強張っていた身体も動く。

「亜人さん、その話はまた今度で、今急いでるんで」

隆史は、適当な嘘を吐いて、その場を離れようとする。

しかし、

「この名は、君から貰ったものなんだよ。それと、君は今人生の分岐点に立っていると思ってくれ」

空気が凍りつくような錯覚に捕らわれる。

たった一言に心臓を掴まれる。

「何を……」

亜人という名前は、俺が付けたらしい。

馬鹿げてる。

そもそも、何故このタイミングで現れたのか、仁や早姫がいる時では都合が悪いのか。

そんな隆史を他所に、亜人はほぼ一方的に話す。

「簡潔に話そう。後二週間もしない内に、この神津島が危機に陥る。その運命をを回避してほしい。私の頼みはそれだけだ」

「私は、この状況を見て少し希望をもった、今ならまだこの島を、救えるかもしれない」

もう、隆史には何を言ってるか理解できなかった。

しかし、亜人は続ける、

「そして、私の目的は警告ともう一つ、この石を君に渡すことだ」

そういって亜人は、黒衣の袖口から、蒼い六角形の石を取り出した。

何かのアクセサリーの様に、紐に繋がれたそれは、少し輝いて見えた。

「これは『賢者の石』、君とこの島の運命を左右する大事な石だ。わかるね」

もちろん、さっぱり分からないので、

「ごめん、さっぱり――――」

と、言おうとした瞬間、亜人は、口だけでキッと苛立ちを見せる。

「そこまで気が付かない君は始めてみた。いや・・・・・・私の目的は、君にこの石を渡すことだ。そうだな」

と同時に、隆史の鳩尾に鈍器のように重い拳が突き刺さる。
隆史は、亜人が何を言ったのかも聞き取れなかった。まだ、隆史の脳に正しい情報が来ない。
そして、隆史身体はくの字に折れ曲がり、ほんの僅かに中に浮く。
僅かな沈黙の後、砂袋が落ちるような音と共に、隆史は地面に転がる。
そこで、初めて痛覚が脳に届く。
「がぁぁッ！」
一見華奢にみえる人が繰り出した拳とは、到底思えない。
野球ボールが当たったのかと思える、硬く鋭い打撃。
肺の空気がごっそり持っていかれた様な感覚が隆史を襲い、うまく声が出せない。
何が、起きた？
一撃で隆史の意識は朦朧としていた。
そこに、亜人の影が覆いかぶさる。
「悪く思わないでくれ、少し急いでいてな。…これも……必要なんだ」
亜人の声が、途切れ途切れにしか聞き取れない。
「未来は、君にかかってる……気をつけて――――」

そこで、隆史の意識は完全に落ちた。

亜人は、『賢者の石』確かめ、瞬きする間もなく虚空へ消えた。

波の音と、三日月のやわらかい光だけが取り残されように。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5986y/

失われた未来２

2011年11月18日06時50分発行